

選定した注目種について、代表的な注目種の生理・生態・生活史を表-6.12.2(4)に示す。上位性、典型性に選定している魚類は、遊泳力が強く、環境変化等で直接影響を受けることは少ないが、基盤環境であるサンゴ礁や海草藻場の変化により、餌料生物である底生動物や小型魚類の分布が変化することや、稚魚期の生息場である海草藻場の変化により、生息域を変化させる。典型性に選定しているサンゴ類、海草類は固着性のため、水質や底質、栄養物質濃度の変化により生息域を変化させる。

表-6.12.2(4) 代表的な注目種の生理・生態・生活史 (その1)

視点	注目種	生理・生態・生活史
上位性	<p>メギス</p> 	<p>スズキ目メギス科。12cm。 伊豆、小笠原諸島、薩南諸島以南に分布。サンゴ礁の浅海域、岩陰や枝サンゴの間に生息。 肉食性であるが、性格は用心深い。 沖縄での地方名はアハヨホー、イコー。 調査海域全域で確認。 写真出典：http://ryo36229.hp.infoseek.co.jp/sports/fish/4actinopterygii/2neopterygii/27suzuki/10megisu/mgsu_megisu_030812b151140ji.jpg</p>
	<p>カンモンハタ</p> 	<p>スズキ目ハタ科。25cm。 南日本に分布。琉球列島では、サンゴ礁内の浅所、岩陰や岩底の間隙に生息。 定住性が強く夜行性。甲殻類、魚類を捕食。 沖縄での地方名はイシミーバイ。水産有用種。 本調査ではサンゴ、岩礁域で成魚を採集。 写真出典：http://www.dl.dion.ne.jp/~ita3/sakana/photos/kanmonhata.html</p>
	<p>コトヒキ</p> 	<p>スズキ目シマイサキ科。25cm。 南日本～沖縄に分布。内湾や沿岸の浅所、河口域に生息。全長14cm以下の幼稚魚は河口の汽水域に多い。産卵期は4～10月。底生の小動物や小魚を捕食。 沖縄での地方名はクワガナー。水産有用種。 本調査では轟川河口で稚魚を採集。 写真出典：http://www005.upp.so-net.ne.jp/barcarolle/fish/fish38/fish38.htm</p>

出典1：岡村収，尼岡邦夫編(2001) 山溪カラー名鑑 日本の海水魚。山と溪谷社。783pp.